

『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第74号(2011年3月11日)太陽電池大国



国際太陽電池展

3月2日から3月4日まで国際太陽電池展が東京ビッグサイトで開催され、3日間にわたって、約9万人の来場者数を記録しました。世界中から多くの太陽電池製造、製造装置、部品メーカーが出展されている中で、中国の太陽電池メーカーが最も注目されていました。2010年には、太陽電池の世界総生産量の約半分を中国メーカーが生産していることや今後中国市場の更なる拡大が期待されていることがその背景にあります。

問われる改革力

中国エネルギー研究会の発表によると、2010年には中国の一次エネルギー消費量がアメリカを抜き、世界一のエネルギー消費国となったそうです。しかし、単位GDPあたりのエネルギー消費量はアメリカの3倍、日本の5倍であり、中国経済のエネルギー効率の低さが問題となっています。2009年、中国政府は2020年までに単位GDPあたりの二酸化炭素(CO2)排出量を2005年比で40~45%削減すると発表しております。この目標を達成するには、単なる技術革新では不十分であり、より抜本的な対策が必要となります。

このような環境下、2010年3月には、中国政府が今後10年で「スマートグリッド」を活用した電力供給体制の整備に4兆元(約50兆円)規模の投資を行うことを発表しました。更に中国電力科学院の所長は、「今後30年間に於いて、スマートグリッドを建設することで、様々な産業に約40兆元(約500兆円)の経済効果をもたらされる」とコメントしました。こうした環境大国を目指すという中国政府の政策によって、中国経済のエネルギー効率の改善だけでなく、環境関連の大きな投資機会が生み出されることが期待されます。

出展された中国太陽電池メーカー



出所: スパークス・アセット・マネジメント撮影



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



太陽電池市場への期待

ここ数年再生可能エネルギーに力を入れてきた結果、2009年には再生可能エネルギーの既存容量において中国の風力発電と太陽熱給湯・暖房分野が世界のトップクラスの規模となり、再生可能エネルギー発電の既存容量も世界トップとなりました(下記の表参照)。しかし太陽光発電分野では他国に遅れをとっているようです。中国メーカーは太陽電池の世界総生産量の約半分を生産しているにもかかわらず(2010年、出所: 中国人民日報)、ほとんどの完成品が欧州を中心に輸出されているのがその理由です。

しかし2009年、太陽光発電システム投資への補助金制度、「金太陽プロジェクト」がスタートし、事業投資総額に対して50~70%の補助金が支給されるようになりました。この「金太陽プロジェクト」は、今後数年間において、中国は太陽電池の生産拠点としてのみならず、中国国内の市場が成長するきっかけになると考えています。中国再生可能エネルギー学会太陽電池担当者によると、2020年の太陽光発電の容量は20GWに達成する見込みで、2010年末の容量と比べれば約60倍になるとのことです。これから中国における太陽電池市場が急速に拡大すると期待しております。

国別の再生可能エネルギーの既存容量のランキング (上位5位) (2009年末現在)

順位	再生可能エネルギー発電*	風力発電	太陽光発電	太陽熱給湯・暖房
1	中国	アメリカ	ドイツ	中国
2	アメリカ	中国	スペイン	トルコ
3	カナダ	ドイツ	日本	ドイツ
4	ブラジル	スペイン	アメリカ	日本
5	日本	インド	イタリア	ギリシャ

出所: 2010 Deutsche Gesellschaft fuer Technische Zusammenarbeit (GTZ) GmbH.

* 水力発電を含む。

(編集後記)ビッグサイトの国際太陽電池展に行ってきましたが、出展ブース、休憩コーナーなどあらゆるところから、中国語を話している人を見かけました。太陽光発電に強い中国の誕生、遠くはない予感がします。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。